

2020

ぶうげん
びりあ3
月号

No.318

ホームページ <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp>

あれから9年

校長 新妻 茂

2011年（平成23年）3月11日午後2時46分。あれから9年が経過しようとしています。この3月14日には、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で不通となっていたJR常磐線の富岡―浪江駅間の運行が再開され、約9年ぶりに全線が開通することになりました。震災発生前より運転本数は減りますが、特急「ひたち」は品川・上野―仙台間で一日上下線計6本が運転され、地元の要望に可能な限り配慮した形となっています。また、開通日の3月14日には、臨時駅だった「Jヴィレッジ駅」が常設駅となり、3月26日には東京オリンピック聖火リレーがJヴィレッジからスタートすることになっています。

一方で、福島第一原発の敷地内には、放射能で汚染された水がたまり続けています。多核種除去設備（ALPS）で処理した水等で合計100万トンを超えていると言われていています。処理水をどうするかという問題については、国の小委員会が海洋放出・大気放出・その組み合わせという3案を示しています。ALPSを使って除去してもトリチウムという物質が残ってしまうということなのですが、当然のことながら公聴会では海洋放出に関して反対意見が多数を占めました。あらためて、私も日本が批准しているという「国際海洋法条約」を読み返してみました。第194条には「いずれの国も、あらゆる発生源からの海洋環境の汚染を防止し、軽減し及び規制するため、利用することができる実行可能な最善の手段を用い、かつ、自国の能力に応じ、単独で又は適当なときは共同して、この条約に適合するすべての必要な措置をとるもの」とありました。ここで言うところの「実行可能な最善の手段」というのはどういうことなのか考えてみなくてはなりません。

他にも原発事故をめぐっては、中間貯蔵施設に集めた汚染土をどう最終処理するのか、燃料デブリの取り出しをどうするのか、使用済み核燃料の取り出しをどうするのか、廃炉のために働いている人の安全対策をどうするのか等々、課題が山積んでいます。事故当初より格段に作業環境は良くなっているとは聞きますが、調査等が多く実際に着手するところまでなかなかたどり着けないようです。当初の予定よりかなり遅れているという話も聞きます。私自身は自分が生きている間に廃炉は完遂しないだろうと思っています。

今年母島中学校を卒業する人たちは、震災当時まだ小学校入学前だったと思います。何人かの生徒に話を聞いてみると、診療所に避難したとかその当時住んでいたところが揺れたなどの記憶があるそうです。それより下の学年になるとほとんど記憶がないようです。そのことを考えると折に触れて震災のことを語ってあげる必要があると思います。阪神・淡路大震災から25年、東日本大震災から9年、あの当時何が起こったのかだんだん風化していくことが怖いのです。

小笠原でも過去に大きな地震が起きています。震源が比較的遠かったり、深かったりしたので、被害は出ていません。2010年12月22日伊豆・小笠原海溝を震源とするM7.4の地震がありました。2015年5月30日にはM8.1（震源の深さ650km）の長周期地震が発生しています。超遠隔離島である母島で大きな災害があったらと想像すると、内地からの救援を待つ間どう自助・共助できるか大きな課題であると思います。

4月。6年生担任の口からは、「最高学年」というキーワードが毎日のようにこぼれていました。「みんなが君たちに注目しているよ。」「君たちは『母小の顔』なんだから。」「来年度以降、もし僕が6年生を担当したとき、君たちのことを胸を張って話せるといいな。」等、調子のいいこともさんざん言ってきました。そんな一言一言を、6年生の4人は真正面から受け止め、実践しました。それが結実したのが、運動会の応援団でした。下の学年への指示や、中だるみしないような練習計画など、自分たちで話し合いながらスムーズに進行していました。担任は4人に「100点中250点！」と点数を付けました。

2学期。移動教室や学芸会など、行事が多い期間です。担任は彼らに、その行事を行う意味を問い、それらを通して、自分たちはどう成長すべきかを話し合わせました。学芸会の時点で、点数はすでに300点を超えていました。行事を終えた後の、清々しい顔が印象的でした。

3学期。担任から出る「卒業」「中学校」という言葉がうるさくなってきました。卒業まであとわずか。担任はまだまだ言い続けることなのでしょうが、めげずに頑張り、伝えたこと以上のことをやってのけるのが、4人の長所だと思っています。もちろん、まだまだ幼いところもあり、学習に関してはもっと頑張ってもらいたいと思うところは、正直、あります。最後の最後まで成長し、3月20日の『有終の美』の『その先』を見てみたいです。点数はいったいどこまで上がっていくのでしょうか。期待をしつつ、胸を張って、4人を送り出したいと思います。

6年生を送る遠足・送る会

2月14日（金）、気持ちの良い青空の下、小学校の卒業行事「6年生を送る遠足・送る会」が行われました。「6送遠（6年生を送る遠足）、楽しみだな～！」「だって5年生、すごい準備しているんだもん！」と、当日の主演をととても楽しみにしていた6年生。5年生は6年生のために、下級生を引っ張って準備を重ねてきました。

遠足は、児童を4つのチームに分け、それぞれのチームが5年生から出されるミッションをクリアしながら島内をめぐり、チームの得点を競い合う形でおこなわれました。脇浜・前浜をめぐったチームは、5年生による母島クイズで盛り上がり、前浜ではサンドアートでカメとイルカを作りました。島内に子供たちの笑顔があふれた、心温まる時間となりました。

午後は学校に戻り、体育館で送る会がおこなわれました。それぞれの学年が6年生への感謝の気持ちを込めて、出し物のプレゼントをしました。どの学年の出し物も「6年生大好き！」「今までありがとう！」という気持ちが伝わってくるものでした。そんな出し物のプレゼントを嬉しそうに受け取る6年生。1年間、さまざまな場所で最高学年として頑張ってきたからこそ、下級生からの「ありがとう」の気持ちがあふれる送る会になったのだと思います。3月はお世話になった方や親しい友人との別れの季節です。今までともに過ごした時間を振り返りながら、残り少ない日々を大切に過ごしていきたいと思います。

『15の旅立ち』。周囲から言われる言葉に、中学3年生の4人はどんなことを感じているのでしょうか。小さなころから多くの愛情を背中を感じ、すくすく成長した4人。教室では将来の夢を語り、希望を胸に抱いた4人。住み慣れた土地を離れることは不安ですが、旅立ちへのカウントダウンは始まっています。

卒業に向けて、中学1年生の頃の写真を見る機会もあり、4人の成長を感じます。背が伸び、身体が大きくなったのはもちろん、今の顔つきとはまた違い、どこか小学生の頃の面影を感じます。島民の方の中には、もっと小さい頃の思い出や表情が思い出される方もおられることでしょう。多くの人と出会い、成長してきたことを感じました。

中学2年生では硫黄島訪島事業に参加しました。小笠原村の中学生として、一人の日本人として、平和について真剣に考えました。船の上から硫黄島を眺め、誓いの言葉に想いを込める4人の様子に、力強さを感じたのを覚えています。

この小笠原村母島で育ったからこそ得られた経験です。母島で経験し学んだことを、きっと4人は将来に繋いでくれることでしょう。

中学3年生。母島で最年長の子供たちとなりました。1泊12日という、多くの中学生が経験出来ない日程を経験することができました。

母島で出会った人と再会したり、一度母島に来島したことのある人達にお世話になったり、改めて繋がりをを感じる修学旅行でした。

3年生になり行事を終えるごとに卒業が近づき、今は一日を終えるごとに、卒業を意識します。

“始まりは突然、終わりは必然” どのような卒業式を飾るのか、楽しみです。

母島での生活が長い人は15年間、短い人でも3年間。生活の中で多くの人と出会い、多くの出来事を通じ、いろんな事を学んできました。楽しいことも、つらいことも、悲しいことも、嬉しいことも。そんな様々な人との出会い、様々な出来事との出会いが積み重なって、今の4人をつくっています。

これから、新たな環境に行ったとき、人間関係の築き方や、諸活動の頑張り方、勉強の仕方など、母島生活で積み重ねたことが、発揮されます。そして、これから出会う新たな人たちと時を積み重ね、成長していく姿を期待し、心から応援しています。

最後になりますが、4人が母島で生活するなかで、見守り支えて下さった地域の皆様、愛情をもってご指導くださった先生方、そして、いつも温かく、時に厳しく、子供たちの成長にご尽力いただいた保護者の皆様に深く感謝を申し上げます。

3月の生活指導

生活目標

「1年間のまとめをしよう。」

- ・1年間の学習や生活を振り返ろう。
- ・思い出に残る卒業式にしよう。
- ・進級・卒業への心構えや準備をしよう。

安全指導

「1年間を振り返り、来年度へ向けて」

今年度の生活の様々な場面で安全に過ごすために気を付けたことや、身に付けたことを確認し、来年度への反省点や継続していくことなどをまとめ、校外で安全に過ごす態度を育てます。

避難訓練 予告なし

地震が発生し、1時間後に津波が来襲すると想定した避難訓練を行います。

放送の指示をよく聞いて、誘導者の指示に従い、安全かつ素早く冷静な避難行動を身に付けさせます。津波の時の避難経路、集合場所を確認させます。

※臨時休校日による行事等の変更について

- ・カレーの日等食事関係のイベント→中止
- ・全学年の保護者会・説明会→中止
- ・(中)卒業行事→中止

○今後の予定でさらに中止等がありましたら随時ご連絡いたします。

見送り式・出迎え式の予定について

・見送り式 3月 30日(月)

・出迎え式 4月 2日(木)

※見送り式・出迎え式の日程が変更される場合は、一斉メールでお知らせします。



表彰等のお知らせ

◇東京都公立学校美術展覧会出展(書写)

小1	さん	小2	さん
小3	さん	小4	さん
小5	さん	小6	さん

◇小笠原村中学生人権作文コンテスト

最優秀賞	中学校3年生	さん
優秀賞	中学校3年生	さん

◇東京都防災標語コンクール

優秀作品	中学校1年生	さん
------	--------	----

「災害時 あわてて準備 もう遅い」

○小中学校玄関前に標語ののぼり旗が立っています。

3月の主な行事予定

1	日		16	月	
2	月	朝礼(安全指導)	17	火	
3	火	(小6)中学校新入生保護者説明会 (小5・6)保護者会 SC 在島~4日まで	18	水	卒業式予行
4	水	(中)卒業行事	19	木	卒業式前日準備
5	木	(小3・4)保護者会(全)思考力チャレンジ	20	金	春分の日 第45回母島小中学校卒業式
6	金	(小6)カレーの日 (中)保護者会	21	土	
7	土		22	日	
8	日		23	月	
9	月	朝礼(保健指導)中止 (小1・2)保護者会中止登校日	24	火	
10	火	(小5~中3)手作りお弁当の日中止	25	水	修了式 離任式
11	水	(小1~小4)手作りお弁当の日中止	26	木	春季休業日始 図書館開放
12	木	周辺美化中止	27	金	
13	金		28	土	
14	土		29	日	
15	日	PTA 総会・歓送会	30	月	見送り式
			31	火	